

「国立台湾大学・清華大学派遣参加報告書」

京都大学文学研究科1年 大島祐輝

①学習成果

今回の派遣で台湾においてどのように哲学研究が行われているのかを知ることができた。そして自分たちが日本の研究室で行なっている研究と比較し、相対的なレベルや研究方法の違いを認識することができた。この派遣で学んだ中で特に重要だと感じたのが、英語を運用する能力であった。自分の研究内容を伝えること、相手の研究内容を知ること、質疑応答を通じて互いの意見を交わすこと、そのそれぞれにおいて英語の能力は前提条件となっている。今後も研究室でのゼミ、また海外派遣などを通じて英語の能力を向上させていこうと思った。

②海外での経験

台湾大学、清華大学の学生と、研究内容についての意見交換を行った。英語で学術的な会話を行う良い経験となった。また日本語が通じない環境での研究発表、質疑応答を経験することができた。これらは自身の英語でのコミュニケーション能力への自信へと繋がったと感じる。

③プログラムの内容

台湾大学、清華大学の二校でのカンファレンスが行われた。台湾大学では「自我・主観・意識」というテーマに沿って、台湾大学、京都大学両校の学生が研究発表を行い、発表者それぞれに対してもう一方の大学の学生がコメンテーターとしてコメントする。私にはそのコメンテーターとしての役割と研究発表の機会が与えられた。私の発表に対してコメンテーターの方が非常に詳細なコメントをつけてくれたので、自身の研究内容を批判する機会が得られた。またそのコメントに対して返答を試みたことも、語学運用の経験となったと思われる。清華大学では比較的フランクな雰囲気の中で研究発表を行った。こちらでは質疑応答の時間を多めに取ることができたので、両校の学生から様々な意見をいただくことができた。特に清華大学で似たテーマの研究をしている学生と交流できた点に意義があったと思われる。

④進路への影響

現在は博士課程への進学は検討しておらず、そこへの影響はなかった。